

国立国語研究所学術情報リポジトリ

平成17年度日本語教育上級研修報告

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2019-03-05 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	https://repository.ninjal.ac.jp/records/1889

平成 17 年度日本語教育上級研修報告

1. 目的

「日本語教育上級研修」は、広く日本語教育に関する職務に携わっている現職者を対象として、「多様化」に現実的に対応し得る人材の養成を目指し、平成 13 年度より新たにスタートしたプログラムである。

具体的には、様々な立場の現職者が集まり、各自の現場で見いだした問題を出発点として、その現状を分析的に把握し、問題意識を深め、各自が課題として取り組むことを通して、日本語教育改善のための視点・専門的知識・能力を身につけることを目的とする。

さらに、研修参加者は、参加者同士の共同作業や相互交渉を通じて、自らの日本語教育を様々な視点からとらえ直し、各分野における協力体制の構築と、分野を超えたネットワークが広げられる人材となることを目指す。

2. 期間

平成 17 年 5 月 14 日～平成 18 年 3 月 10 日

3. テーマ

「教育内容の改善・教育環境の整備のための方法」

上記のテーマのもと、各々が日本語教育現場における実践・研究等から見いだした具体的課題を追求する。

4. 募集対象

(1) チーム応募

原則として 2～5 人の研修チームを構成して、上記 3. のテーマに関連する課題を設定し、応募する。

(2) 個人応募

上記 3. のテーマを追求するために「授業の観察と分析」を課題とする。個々に重点的に追求する分野・側面等を副題として設定し、個人

で応募する。個人単位の応募であるが、「授業の観察と分析」を共通課題として、個人参加者によるグループとして研修活動を行う。

5. 研修概要

<研修の基本方針>

(1) 本研修では、以下の 3 つを柱として活動を行う。

①教育現場における具体的な問題について、参加者自身が理解を深め、自らの実践を改善する。

②相互交渉・共同作業をとおして、自らの課題を追求する。

③他者との連携のために、情報の収集・発信・共有等の方法を模索し、実践する。

(2) 本研修は、チーム応募、個人応募にかかわらず、個人を研修生として受け入れるものとする。

(3) 研修生は、国立国語研究所内外の人的及び物的なリソースやネットワークを積極的に研修活動に活用する。研修活動が円滑に進むよう、研修担当者は活動の内容や方法に関する助言、リソースの提供等必要な支援を行う。

<研修活動の内容>

(1) 研修生は国立国語研究所の研修担当者との間で、原則として毎月 1 回、定例会合を持つ。会合は原則として国立国語研究所で行う。チーム参加の場合、具体的な日時を研修チームと研修担当者との調整によって決定する。個人参加者のグループの場合、定例会合は原則として第 2 土曜日に実施する。定例会合では、それぞれが進めてきた文献研究、情報収集、計画案の作成、データ収集、実践的検討等の結果報告を受けて、次の活動の進め方について研修担当者とともに検討する。なお、研修スタッフは第 2 土

曜日に、必要に応じて外部講師等による研修レクチャーを開催する。

(2) 研修生は、チームごとに、あるいは共同で、以下のような会を企画・実施する。

①課題に関する自主研究会等（研修の進行にあわせて随時実施）

②中間発表会（半公開）

③修了報告会（公開）

(3) 研修生は、以下のものを作成し、提出する。

①定例レポート：研修活動の進行にあわせて定期的（月1回程度）に作成し、活動の進捗状況等についての内省・共有・検討のために利用する。

②修了レポート：研修成果をまとめる。

③ダイアリー：研修の活動を通じ、「学んだこと・考えたこと・感じたこと」をダイアリーにまとめる。個人別に自由に記述し、定期的に提出する。定期的な記録・読み返し・分析により、問題点の発見・改善に役立つ。

6. 全体の経過

5月14日：オリエンテーション・研修課題発表
*定例会合・メーリングリスト等の開始

9月11日：中間発表会

2月9日：修了レポート提出期限

2月25日～3月5日：修了面接

3月24日：修了生修了通知
(2チーム5名・個人3名)

4月29日：修了式・修了発表会
*個人1名はやむをえない事情により、修了時期延期（5月修了予定）。

レクチャーシリーズ

5月14日

第1回：「自分自身の指導現場の経験を振り返って」

丸山敬介氏（同志社女子大学）

5月28日

第2回：「授業を見るーその1ー」
金田智子氏（国立国語研究所）

6月11日

第3回：「授業観察とそのデータを生かすには」
才田いずみ氏（東北大学）

7月9日

第4回：「授業を見るーその2ー」
文野峯子氏（人間環境大学）

7. 修了レポート

<チーム参加>

(1)「INチーム」和泉元千春・野畑理佳（国際交流基金関西国際センター）

題目：「自律学習支援としての『学習相談』における教師の関わり」

(2)「ジャヤニヤタイチーム」立原雅子・落合知春・有山優樹（イーストウエスト日本語学校）
題目：「非漢字圏学習者を対象とした漢字指導ー初級レベルの漢字の運用を目指してー」

<個人参加>

(1)池田亜希子（スリーエーネットワーク教育広報部）

題目：「学習者・授業・教師を見る」

(2)武田恵司（イーストウエスト日本語学校）
題目：「クラス通信による『教師が目指す教室』実現への試みー学習者間の関係性構築をめざしてー」

(3)野口直子（学習院女子大学）
題目：「自分史を素材とした授業の振り返りから、今後のよりよい実践を考える」

(4)山口登代（東京ランゲージスクール新宿本校）

題目：「視点から捉えなおしたヴォイス・受給表現ーレベルを考慮した教材例（仮題）」

(記：小河原義朗)